

# 地球環境を 守るための 農業を



## Profile ごとう・きよと

昭和3年2月24日生まれ。農機具メーカーに勤める傍ら、自然農法の農業に取り組んできた。NPO法人百姓倶楽部ネット元理事長。菊池環境保全型農業技術研究会(無農薬で生産している農家の集まり)発起人。孫は5人。深川区在住。92歳。

ボカシは米ぬかや油かすなどの有機物に、土やもみ殻などを混ぜて発酵させて作る肥料のこと。後藤さんが作るボカシに肥料の概念はなく、微生物の餌・すみかとして考え、作物に対する病原菌や土壌中の残留農薬などを分解するものと考えている。

「体が本当に喜ぶものを作りたい」。自然農法に取り組んで53年。人にも自然にも優しい農業を追及し続けてきた。39歳のとき、飼いネコにノミが付いていたので、薬を体に散布したところ、1週間ほどで死んでしまった。このとき薬剤の危険性を実感。「このままだと農業で環境を破壊してしまうのではないか」と疑問を抱いた。

「明日から化学肥料や農薬は一切使わんけん」。そう妻に告げると猛反対され、口を聞いてくれない日々が続いた。しかし、決めた以上決意は揺るがない。農機具メーカーに勤めながら、自然農法の研究に没頭。給料のほとんどを研究費につぎ込んだ。「迷惑はかけんけん、賛成してくれ」と説得し、妻もしぶしぶついてきてくれた。

追究するうちに、「自然本来の力で土壌から改良せんといかん」と考え、微生物の持つ力に着目。研究と改良を重ね、独自の「ボカシ」を開発した。無農薬・無化学肥料でありながら、作物の日持ちが格段に延び、収穫量も2倍に増えた。

周りからは「後藤農法」「後藤ボカシ」とも呼ばれ、講演会で日本各地を回った。東海大学農学部でも6年間普及に務めた。技術を学びたいと、全国から見学者や相談者が訪れている。

「この農法を多くの人に伝え、日本の農業を変えていきたいか。100年後も自然豊かな地球環境を守れたら本望たい」。次世代に継承していくために、熱意と探究心は絶えない。

## 「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

### 問い合わせ先

市長公室広報交流係  
☎ 0968 (25) 7252



自然農法の達人

後藤 清人さん



1\_後藤さんのボカシは、酸素を必要とし生育する好気性微生物約800種類や1番絞りのなたね油のかす、無農薬の玄米を粉碎したものなどを使用。特許も取得した 2\_2005年発行の月刊誌『現代農業』に妻の故・陽子さんと夫婦仲良く表紙を飾った 3\_苗床中の水田。1反で通常の約2倍にあたる15俵ほどの米が収穫できる